

•蜷川幸雄演出『ハムレット』（1988年）における音楽
——オフィーリア狂乱の場面を中心に

概要

。これは、演劇上演における音楽についての論文である。

演劇は総合芸術といわれ、その構成要素に音楽が含まれていることは言うまでもない。広義での演劇という大きな枠組みの中には様々な分野の演劇があるが、中でも新劇は音楽との密接な関わりを持たずにテキストに重きをおいて発展した分野である。本論文では新劇の流れの中にある現代日本の演劇を対象とし、代表的な演劇人のひとり 蜷川幸雄の演出した『ハムレット』（1988年）に注目して、この作品における音楽の位置と役割を考察した。

蜷川幸雄の演劇活動は大きく4期に分けることができ、その第2期から本格的な演出活動が開始されている。第2期は時代の反体制運動の風潮に同調した演劇作りで若い観客から絶大な支持を受け、第3期には商業演劇の演出家となって商業演劇の変革を目指した。この第3期の数々の舞台には、これまで言われてきたような“階段構造の舞台”とか“群衆と音楽と花”といった特徴が溢れている。第4期はさらに二つに分けられ、前半は社会的地位が向上する反面彼自身は低迷期にあり、新たな演出の可能性を模索している。後半になると低迷から抜け、演出方法を根本的に改革した。そして、21世紀に入ると自らの過去の名演出を打ち壊して再演出する動きが目立つようになる。この演出活動において、現在六つのバージョンを持つ蜷川の『ハムレット』は、初演が第2期、2演目が第3期、3演目が第4期前半、4演目以降が第4期後半と、興味深い配置となっている。

蜷川の演出活動を概観すると、演出を含めた彼の生き様には、エスタブリッシュメントへの反抗という本質的な特徴があることがわかる。学生時代に抱いた強烈なまでの組織への違和感が、彼の意識の奥深くに浸透した結果と言える。

『ハムレット』（1988年）は、六つの『ハムレット』のバージョンの中では最も酷評を受け、演出家自身に駄目な演出だったとまで言われた。しかし、演劇的な質の問題は別として、蜷川演出の本質的特徴がはっきりとあらわれている作品である。お雛様に見立てた雛壇での人物配置で権力構造を明確に打ち出し、宮廷の権威とか男性社会という社会的抑圧に耐えて生きる女性像や、権力に這い寄って世を渡っていく人々の生命力を露骨なまでに表現し、権力への憎悪感を皮肉を込めて描いている。特に、第4幕第5場のオフィーリ

ア狂乱の場面は、諸効果が絡み合って、蜷川のエスタブリッシュメントへの姿勢が効果的に表されている。

この作品上演において使用された音楽を、劇効果としての働きごとに分類すると、圧倒的に場面の雰囲気や状況を伝える働きのもが多く、人物の感情などを伝えるために使用される音楽はそれほどない。観客は特定の人物に感情移入して観劇するというより、劇世界で展開される出来事を追体験してその状況を掴み取るのである。そして、人物に関する音楽も、亡霊という異質なものに関してのみ電子楽器による音楽を用いている。さらに、同一音楽が複数回にわたって使用され、なおかつそれが表現する内容が質を異にする事柄である、という状況はほとんどない。これらのことから、音楽に対する慎重な姿勢が読み取れる。

第4幕第5場のオフィーリア狂乱の場面でも、音楽は効果的に働いている。いかにも哀切な雰囲気のある弦楽曲であり、多くの学者に悲愴美のシーンであると言われてきたこの場面にとっては、まさにあつらえ向きの音楽かもしれないが、『ハムレット』（1988年）では他の要素との化学反応によって、ありきたりな舞台効果から脱している。お雛様の並びに従って権力者ほど上段に配置するのがこの作品でのルールであったが、この場面ではそれを逆手にとって権力者である王と妃を最下段に配置した。オフィーリアの衣裳は、段階的に変化し、和装から洋装へと移り変わる。第4幕以前では社会的抑圧に耐える姿を象徴するように発言のみならず動きまで抑制されていたオフィーリアだが、狂乱の場面では彼女が最も快活に振舞い、その他の人物の動きが抑制されている。これらの視覚的効果に、音楽の効果がさらに力を添える。王たちは大げさに彼女の狂乱を嘆き悲しむが、その悲しみ様に哀切な音楽が重なり、これらは過剰に同調する。この同調の過剰さとオフィーリアの自由な雰囲気の不一致によって、却って王たちの悲しみは無意味で不自然なものとなる。結果的に、狂乱はオフィーリアを抑圧してきたエスタブリッシュメントから彼女を解放するのである。

新劇の流れを汲む現代演劇において音楽が伴奏的地位に押しやられる傾向が根強く残る中で、蜷川幸雄の演出した『ハムレット』（1988年）は、音楽を演劇の構成要素の一つとして効果的に使用した作品であり、音楽が演劇の一要素として重要な役割を果たしうる要素であるということを証明している。